



# 記録画展開催にあたって

先の大戦では海運や水産で働く6万余人の船員と商船や機帆船、漁船など約7200隻・880万総トンを超える船舶が失われました。

わが国最初の船舶画家といわれる大久保一郎画伯は、戦前から大阪商船の嘱託画家として仕事をしてきました。戦況の劣勢で社船が次々に撃沈されていった1942(昭和17年)、大阪商船の社長岡田永太郎から「失われていく社船を記録に残してほしい」との指示を受けました。戦時統制下の厳しい状況をおして、生還した船員たちから戦場の生々しい証言を聞き、記録画を密かに描き残したのです。

これらの油彩画は終戦直後のかん口令や復興の混乱の中で行方不明になっていましたが、1982(昭和57)年に40年の眠りから目覚めて発見されました。戦時中に描かれた約80点のうち、修復が可能であった37点が晴れて公開されることとなったのです。

年に1回全国各地で開催されてきた、知られざる民間船舶の悲劇「戦時徴用船遭難の記録画展」は今年で52回目を数え、東京都では2022(令和4)年以来6回目の展示となります。

ご遺族はじめ多くの皆様に戦時徴用船の乗組員の悲惨な実相をお伝えするため、ここに謹んで戦没船員6万余人の御霊の鎮魂と海洋永遠の平和を祈念して記録画展を開催いたします。

公益財団法人 日本殉職船員顕彰会  
会長 池田潤一郎



貨客船「せくら丸」の絵の前に  
1962(昭和37)年頃

**大久保一郎画伯** (1889-1976)

明治22年 大阪市富島町(現在の西区川口)で生まれる。  
大正15年 大阪商船(現備前商船三井)の嘱託画家に採用、初仕事に南米移民船「らぶら丸」を描く。以後、同社の宣伝用絵葉書、航路案内、広報誌、ポスターの絵とデザインを担当する。  
昭和17年 大阪商船社長岡田永太郎の命により、同社の戦時徴用船初期の記録画を描き始め、終戦までに油彩30号約80点を制作する。  
昭和51年 1月19日自宅にて死去、享年86。  
昭和57年 旧大阪商船本社倉庫で大久保画伯の遺作37点が発見され、絵画修復家黒江光彦氏により修復。12月に第1回記録画展を開催

## 戦時徴用船って何?

1937(昭和12)年に端を発した先の大戦では約8年間にわたり、太平洋全域からインド洋に及ぶ広域で日本は米英を中心とする連合国と戦いました。

資源のない日本は、原油・鉄鉱石などの鉱物資源や生活物資を求めて南方へ進出していきましたが、それには、兵隊や武器・弾薬などの軍需物資と資源などの輸入物資を運ぶための大量輸送船隊と海上輸送路の確保が絶対条件だったのです。

1938(昭和13)年「国家総動員法」によって、すべての国民が戦争に巻き込まれていきました。さらに1942(昭和17)年「戦時海運管理令」によって民間の船と船員のすべては、陸軍、海軍、船舶運営会のいずれかの管理下に置かれました。

このように国の管理下におかれた船を「戦時徴用船」といいます。



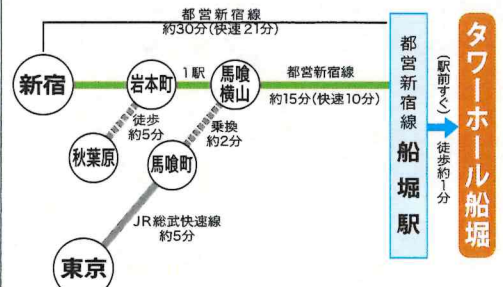
沈みゆく「関西丸」に別れを告げる乗組員

陸軍徴用船「関西丸」(8,614総トン)は昭和18年9月16日、ラバウルで「摩耶山丸」と船団を構成、38号駆潜艇の護衛でパラオへ向かう。18日午前9時46分、米潜水艦「スキャン」の雷撃を受けて航行不能となり、30分後、総員退船命令が下った。無人となった本船は漂流を続け、19日午前2時頃アドミラルティ諸島・マヌス島北方260kmの海域、北緯1度3分、東経146度27分の地点で、雷撃により沈没した。戦没船員1名。

## 戦時徴用船が遭難した南方海域



## 電車アクセスご案内



所要時間として表示している時間は、状況によって異なります。目安としてご覧ください。

**相談室 DVD放映**

●会期中、当会が所蔵する戦没船員名簿や各種の戦没船関係書籍をもとに、遺族など関係者の相談に応じます。

●DVD①第50回戦没殉職船員追悼式(26分)②NHK特集・太平洋シーレーン作戦(60分)を放映します。

公益財団法人 日本殉職船員顕彰会

東京都千代田区麴町四丁目5番地 海事センタービル TEL 03-3234-0662  
E-MAIL kenshoukai@isis.ocn.ne.jp URL https://www.kenshoukai.jp